

# 県総合畜産だより

## 増産を望まれる和牛

### 需要に追いつけぬ供給今こそ増産に踏切ろう

和牛は、いま農耕用としてでなく、著しい食肉需要の増大に伴い肉用牛として、将来の見通しは明るく、和牛の方向はかく然としてきました。

日本農業では、これまで、よいといわれるものは、何でも手を付ける……結果は……値崩れ……豊作貧乏と…繰り返しの連続がみられる。

最近のはげしい経営変革により、和牛の手放しは、軒並みに進められた。その結果として相場は上った

が、牛がいないと言う現象が現われて来ている。しかし、これからの和牛は、豊作貧乏はないし、農作目で中経営的に価格において特異的存在としてその期待は大きい。供給が需要に追いつけず、望ましいことでないが跛行相場となったが、今こそ、肉用牛としての和牛を見直し、高い視野からじっくり腰をすえて増産に踏切って貰いたいものです。

2ヶ年間の上場頭数、価格の動向

年度別	月別	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12												計	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
三八年	上場頭数	2,725	2,818	2,022	1,394	2,607	—	2,041	2,260	1,585	505	4,553	3,616	26,125	100
	1ト当りの価格	28,800	32,700	26,500	26,200	27,100	—	25,400	30,100	30,500	34,400	30,300	26,800	28,800	100
三九年	上場頭数	1,211	3,105	2,602	876	2,656	—	1,739	1,978	1,284	499	2,738	3,377	22,065	100
	1ト当りの価格	32,800	30,700	27,200	31,300	30,500	—	35,200	34,500	36,900	42,500	29,000	38,400	33,900	100

(注) 昭和38年と39年との比較をみると昭和39年は、上場頭数は38年より16%減、価格において18%高であります。

2月上、中旬の子牛市況

開月	設日	市場名	性別	入場数	売買数	売買率	1頭当りの価格			県外移
							最高	最低	平均	
2.6	月田		♀	19	15	78	70,300	36,000	47,800	4
			♂	24	24	100	47,000	30,800	38,400	21
			計	43	39	90	70,300	30,800	42,600	25
2.7	久世		♀	60	58	96	66,300	28,400	45,800	27
			♂	48	48	100	56,600	34,900	44,600	31
			♀	3	3	100	57,200	47,800	52,500	2
			計	111	109	98	66,300	28,400	45,500	60
2.8	落合		♀	109	103	94	77,300	31,800	48,000	51
			♂	87	87	100	55,200	23,100	43,200	44
			♀	8	8	100	58,000	46,000	50,400	8
			計	204	198	97	77,300	23,100	46,100	98
2.10	津山			285	280	98	65,800	22,800	45,700	217
2.11				316	307	97	80,400	14,400	46,700	260
2.12				291	287	98	71,000	29,000	44,500	242
2.13				244	241	98	88,300	20,900	45,500	179

(注) ※前年同期比は、10,300円～20,400円高となっており、とくに真庭郡のヌキにおいては、昨年同期よりも20,400円高であり和牛への用畜化(肉用)が強くあらわれている。

※昭和38年11月のピークの平均46,000円時に追ったが、先行強気横ばいであろう。

# 古くして つねに新しい和牛 時代と共に進む和牛!!

## 和牛の生産育成の考え方（案）

最近、和牛の利用目的が大きく変り、これに伴って子牛のセリ市出荷方法もお客の好みに合わせるよう意識し、日常飼育管理の改善を図る必要があります。今日の子牛取引価格が体積主体に行われていることから、今後一層規格向上を図らねばならないが、種牛、繁殖牛においては、やや目的が異なっているので管理面に多少手心を加えて、商品価値を高めるようにし、夫々地域、目的により、生産、育成につき一段の工夫が必要であると考えられます。このことについては表現し難いが一つの私案として図解してみたので、ご検討願います。

■これからの和牛は、肉用牛であって、肉利用主体の方向に、改良及び飼育管理についても大きく変わった。

■和牛の経済的方向は決ったが、今後その経済価値を高めるため、その牛の利用目的（種畜型、肉利用型）に区別し、夫々の商品的価値の向上をはかる必要がある。

■今後和牛頭数の減少から考え、種畜供給基地造成及び和牛全般の経済性を高めることが急務である。

■子牛の飼育管理についても、種牛を目的にする場合は、肉牛素牛の利用のように、体積、発育力のみのもものでは、十分な経済的効果を上げることは出来ない。種牛は、繁殖を目的にするため、十分な運動と健康な牛に育て、骨緊りに留意する余り過肥になると却って格安になる傾向すらあるから注意する。

■去勢について、一部地域（放牧）を除いて、全面的に実施し、合理的な、飼育管理を行う。これからは、理想肥育の素牛も枯渇することが必至であるので、去勢の普及拡大を図る必要がある。

■利用型を故意に区分したが、これらの相互間には、共通点（肉利用）があり、適時適切な指導が必要である。

		肉用牛（和牛）	
		種畜型	肉利用型
地域	山間避地	複 合	平担，交通便なる
飼養牛	血統優秀（繁殖の基礎牛）		産肉能力本位（肉牛素牛主体）
飼養方法	種畜生産の主体		肉畜素牛生産を主体
	◦種畜としての適度運動，骨緊		◦肉利用として早肥早熟
	◦多頭化 粗放的（放牧）		◦集約，省力，（舎飼）
商品化の目標	◦粗飼料主体	◦かなりの濃厚飼料の利用	
去勢	血統，体型，資質 （二代登録以上）	発育，体積，資質	
	去勢の普及に困難性あり	去勢の普及可能	
経営	自然環境の利用	時代的即応性が高い	
	経営的観念は低調	経営観念は強い	
和牛の経済性は、肉用牛である。したがって、早肥早熟で粗飼料の利用性が高く、飼い易く、繁殖能力の高い用畜であること。			

# 第1回全国和牛産肉能力共進会開催計画決る

会場；岡山市  
会期；S40. 12. 1  
S41. 10. 17

本県としても、本県和牛特色を遺憾なく発揮するために早急に末端農家及び関係機関において出品準備体制を整えていただきたいと思います。対象農家、対象牛の選抜方法を参考にいただき本共進会開催に対し格別のご配慮をお願いします。

## 「肉牛の部」の肥育農家選抜基準

今回の産肉能力共進会の肉牛に部については、和牛の経済価値を遺憾なく発揮するため肥育農家の選定についても、次の項を十分留意し選定されます。

なお、出品農家の選定は、各農林事務所からの推せんの中から選抜されますので、出品希望者は、S40. 3. 31までに所轄の農林事務所へ申込をして下さい。

- 1) 肥育経営…2年以上、出来ることなら共進会出品経歴のあることを希望する。
- 2) 記帳能力…対象農家は、記帳をして、給与飼料の種類、給与量、給与法、管理方法を行う優秀なものにつきましては、これらの記録を一般和牛指導資料に利用される。
- 3) 人物（社会、和牛肥育に対する貢献性）今回の共進会は、和牛の経済と、本県の特徴を十分発揮する機会であるだけに、農家選定は厳重を要する。
- 4) 良質粗飼料の確保…若令肥育牛の生産機能を促進するために一定量を確保出来ること。

生草 約6,000kg

干草 約300kg

詳細については、農林事務所、総合畜産支所へ連絡して下さい

## 肉牛素牛の選抜規格表

選抜規格項目	数 量
月 令	5~8ヶ月
生 体 量	225Kg以上(60メ以上)
体 高	110cm (3尺6寸)
胸 囲	137cm (4尺)

- 1) 選抜については、発育、増体が絶対的なものであるが、資質、体形についても十分検討する
- 2) 離乳後の発育、増体が順調にするためには、早期に成牛型の消化機能を付与するための良質の乾草給与すること
- 3) 牛の一生は、哺乳期中に決るとさえ言われている、この期間の母牛は泌乳量には、とくに検討の要がある。最善をつくす上から母牛の飼育管理に十分留意すること。
- 4) 去勢は、哺乳中に実施することであるが、資質、体型、肉牛タイプから生後2~4ヶ月を目標に実施し、施術も治療後の発育からみて去勢をすること。

